

INFORMATION

**時間が無い社会人の方にオススメ！
中小企業診断士30!!**

教材フル装備!

情報量そのまま!

60分講義を実現!!

仕事が忙しくて学習時間の確保が難しかった方にオススメのコースです!

従来の講義内容をそのまま1講義60分に凝縮している
ので社会人の方が無理なく1次試験合格を目指せます。
科目別に受講もでき、中小企業経営・政策なら2時間で基礎講義をマスター!

各科目の基礎講義時間

経済学・経済政策	財務・会計	企業経営理論	運営管理
4時間	9時間	5時間	4時間
経営法務	経営情報システム	中小企業経営・政策	トータル講義時間
3時間	3時間	2時間	30時間

**アウトプットを中心に学習！
1次科目別経験者合格コース!!**

必要な科目だけ選択して受講できる学習経験者専用の1次試験対策コースになります。
短時間で効率的な学習ができる中小企業診断士30のWebフォローを特別価格で受講できる特典付き!

**今から間に合う2次合格法セミナー
8/4(日)～配信開始!**

1次試験後からスタートしても間に合う2次試験の合格法をご紹介します!
これから2次試験対策をお考えの方は必見のセミナーです!!

**最新情報や講師メッセージを
ツイッターでお届けします!**

フォロー
お願いします



① 経済学・経済政策

【総評】

令和元年度の本試験は、過去18年間の設問数と同じで25問であった。また、前年度は25問中1問が5肢択一であったが、今年度はすべて4肢択一であった。難易度については、前年度と同様に、簡単に得点できる問題も多く、全体的な難易度は標準レベルであるといえる。よって、今年の問題は、過去問題を軸に演習をしっかりと取り組まれた方にとっては、合格ラインの60点は確保できたものと思われる。本科目は、マクロ経済学、ミクロ経済学から出題されており、今年度は解答数ベースで、マクロ経済学11問、ミクロ経済学14問であった。

第1問～第9問がマクロ経済学からの出題問題と考えられる。例年見られる統計資料をもとにした出題が2問あった。基本的な論点に関する問題として、第4問（消費関数理論）、第5問の設問1及び設問2（45度線分析）、第6問（マネタリーベース）で得点を取りたい。第8問の設問2（流動性のわな）も正答したいところである。

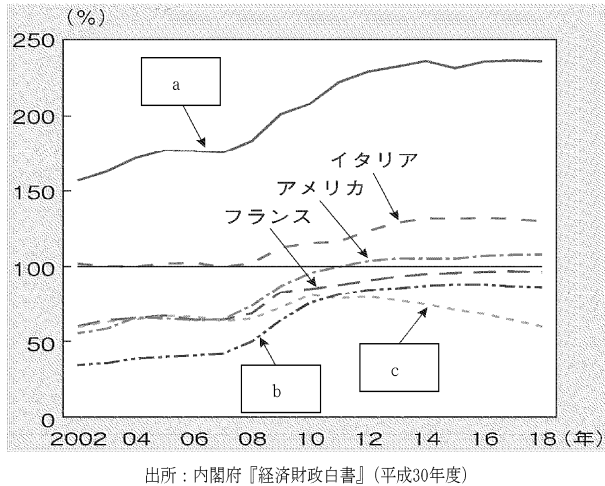
第10問～第21問がミクロ経済学からの出題問題と考えられる。微分を用いる計算問題などは出題されず、頻出論点を中心に、基本事項やその応用問題が出題された。基本的な論点に関する問題として、第10問（余剰分析）、第12問（無差別曲線）、第16問（操業停止点）、第18問（貿易政策）、第19問（モラルハザード）で得点を取りたい。第20問（コブ＝ダグラス型生産関数）は、頻出論点ではないため正答出来なくても問題ないであろう。第14問（労働と生産水準）については、労働の平均生産物と限界生産物の各概念をグラフ上で理解できていれば得点できる問題であるが、そうでない場合は迷われたであろう。また、第17問（共有資源）については、類題が一昨年に出題されており、その知識をもとに、海洋資源をめぐる時事問題を念頭において解かれた方は、正解できたものと思われる。

【的中問題！】 一部ご紹介致します！

大原：直前対策模擬試験①－第1問

第1問

下図は、債務残高(対GDP比)の推移の国際比較を示したものである。図中のa～cに該当する国名の組み合わせとして、最も適切なものを下記の解答群から選べ。解答は問1にマークすること。



〔解答群〕

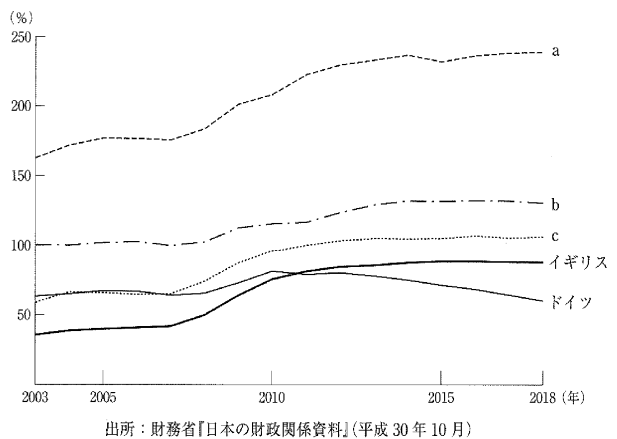
- ア a：日本 b：英国 c：ドイツ
- イ a：英国 b：ドイツ c：日本
- ウ a：ドイツ b：日本 c：英国
- エ a：英国 b：日本 c：ドイツ
- オ a：ドイツ b：英国 c：日本

本試験：第1問

第1問

下図は、政府の債務残高(対GDP比)の国際比較である。

図中のa～cに該当する国の組み合わせとして、最も適切なものを下記の解答群から選べ。



〔解答群〕

- ア a：アメリカ b：イタリア c：日本
- イ a：イタリア b：日本 c：アメリカ
- ウ a：日本 b：アメリカ c：イタリア
- エ a：日本 b：イタリア c：アメリカ

大原：公開模擬試験－第8問

第8問

消費の理論に関する説明として、最も適切なものはどれか。解答は問8へマークせよ。

- ア 絶対所得仮説では、個人の消費は、その個人の生涯所得に依存すると考える。
- イ 恒常所得仮説では、個人の消費は、現実の所得だけではなく、景気変動のような一時的要因によって決定される所得にも依存すると考える。
- ウ 習慣仮説では、個人の消費は、現在の所得だけではなく、過去に達成した最高所得水準にも依存すると考える。
- エ ライフサイクル仮説では、個人の消費は、その個人が現在消費することができる所得の総額の大きさのみ依存すると考える。

本試験：第4問

第4問

消費がどのようにして決まるかを理解することは、経済政策の手段を検討する際にも、また、景気動向を予測する上でも重要である。一般に、消費の決定に所得が影響すると考えられているが、具体的な影響の仕方についてはいくつかの考え方がある。

消費の決定に関する記述として、最も適切なものはどれか。

- ア 恒常所得仮説では、一時金の支給によって所得が増加しても、消費は増加しない。
- イ 絶対所得仮説によるケインズ型消費関数では、減税によって可処分所得が増加しても、消費は増加しない。
- ウ 絶対所得仮説によるケインズ型消費関数では、定期給与のベースアップによって所得が増加しても、消費は増加しない。
- エ ライフサイクル仮説では、定期昇給によって所得が増加しても、消費は増加しない。